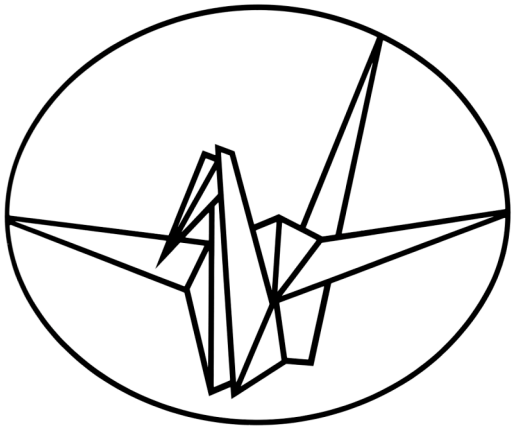
ヒロシマ・ナガサキ 被爆70年

2015年ＮＰＴ再検討会議へ向けて

被爆者からのメッセージ

～ 被爆者と若い世代の共同作業による「聞き書き」から～



日本原水爆被害者団体協議会
ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

このメッセージは、英訳して国連に届けます。

被爆者の願い、人類の望み ── 核兵器のない世界をいま

広島・長崎への原爆投下から 70 年を迎えました。

広島・長崎で原爆地獄を生きのびた被爆者は 自らを救うとともに、私たちの体験をとおして人類の危機を救おうという決意を誓い」あって日本被団協を結成しました（1956 年）。そのときの気持ちをいまも胸に抱き、「ふたたび被爆者をつくるな」と訴え続けています。

二発の原爆は、一瞬にして、広島と長崎を破壊しました。無差別に多くの命を奪いました。幽霊のようになって歩く人を見て、自分はどうなっているかと、我に返り、顔、胸、腕を触って確かめ、血が流れ、黒く焼け、垂れ下がっている自分に気づきました。身動きできない体をむしばむ蛆と治療の痛み、「殺してくれ」とおもわず叫んでいました。

幸いに生きのびたとしても、被爆者には、原爆によるとしか考えられない体調の不調や病気が襲ってきました。結婚、就職をはじめ、生活のあらゆる場で偏見・差別が待っていました。親が、兄弟姉妹が、友人が、子どもが原爆に殺されました。自ら命を絶った人もいました。被爆者にとって「生きる」とは苦しみに耐えることに他なりませんでした。

同時に被爆者は、人間の英知を、人間同士の気持ちを信じました。子や孫、将来の世代に、どんなことがあっても核兵器のない世界を残すことを被爆者の使命として、核戦争を起こすな、核兵器なくせと訴えてきました。

戦争という政府の行為の中でもたらされた原爆被害を二度と起こさない、ふたたび被爆者をつくらない証として、「原爆被害に対する国の償い」を求めてきました。

原爆・核兵器は人類と共存できない兵器です。「核兵器を使用した核大国としての道義的責任」を有するアメリカと、「唯一の被爆国としての人類史的責任」を有する日本が、力を合わせて、核兵器の廃絶に向けて主導的役割を果たすなら、世界を変えていくことができます。

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会は、被爆者の死と生、運動を記憶遺産として受け継ぐことを目的に、ノーモア・ヒバクシャのこころを共有する人びとによって結成されました。

同会に集う人たちは、「被爆者の話を聞き取る会」を積み重ねてきました。多くの被爆者が、自らの被爆体験とその後の不安と苦悩の人生、被爆者として生きることの使命について語りました。世代を超えた多くの人、とりわけ若い世代の人びとが熱心に耳を傾けました。

本冊子「被爆者からのメッセージ」は、被爆者が語った体験や思いを、若い世代が聞き取って書き起こすという共同作業で作り上げました。

小さな冊子ですが、被爆者と、その思いを受け継ごうとする人びとの共通の願いが込められています。

ひとりでも多くの人びとに、この願いをくみ取っていただければ幸いです。

【本冊子の構成】

被爆者の証言・訴えの３項目と、聞き取り手の感想の４項目で構成されています。

１．被爆したときのこと
２．その後の人生について
３．いま、被爆者として訴えたいこと、世界と次世代の人びとにこれだけは伝えておきたいこと
◎　聞き取りの感想、受け継ぎ手として世界と次世代の人びとに伝えたいこと

【凡例】

１～３の項目の冒頭１行は、● **被爆地／被爆状況／性別／被爆時年齢** ── を示します。

【表紙イラストについて】　「折り鶴」をデザインした被爆者運動のシンボルマークです。

ダウンロード用PDFデータ

1．被爆したときのこと

● 広島／直爆距離不明／男性／ 15 歳

中学３年生でガス工場に動員され、トロッコで運ばれてきてカゴに入っているコークス（無煙炭）を炉口まで上げる作業をしていた。工場のガラス窓を背にして座っていた。その瞬間、カメラのフラッシュの何万倍かの明るさで周囲がおおわれ、ガスタンクが爆発したと思った。光、音、爆風、破片の順番で自分に向かって来た。一瞬、工場内はシーンとしていた。みんな失神状態だったのだと思う。天井のところに青空が見えていた。木の柱と板壁は倒れていた。私は手すりと壁の三角地帯に居たのでかすり傷一つなかった。防空壕まで砂浜を歩いた。町からは黒煙が上がり火も見えた。顔から出血し着衣はぼろぼろの人たちがいた。

● 広島／直爆 1.2km ／男性／ 16 歳

母は崩れ落ちた家の下敷きになっていた。「母さん！」と叫ぶと、屋根の下から「ここよ」という声が聞こえた。屋根板をはがして顔を突っ込んだらコンクリートの土台の上に大きな梁が重なって、行く手をはばんでいた。わずかな隙間から１メートルほど先に仰向けに倒れている母の姿が見えた。つむった目のあたりから血が流れていた。何を話しても目を開けず、顔をこちらに向けようともしなかった。別の方から掘り出したが、そのうちに爆風の吹き返しの火事嵐がものすごい勢いで迫り、火の粉がふりかかってきた。「母さん、駄目だよ。火事の火が近づいてきたよ、こっちからはもう側まで行けんよ」悲鳴に近い叫び声をあげた。母は、「そんなら早よう逃げんさい」と言ってくれ、死を覚悟したのか「般若心経」を唱えだした。僕は、その声に後ろ髪を引かれながら、母を見殺しにして逃げた。

２～３日後、家の焼けあとに積もった灰の中を探したら、母が倒れていた場所から遺体らしいものを見つけ出すことができた。でもそれは人間の姿ではなかった。母は小柄だった。まるでこどものマネキン人形にコールタールを塗って焼いたような、油でずるずるした物体だった。母は人間としてではなく、「モノ」として殺された。悔しい。本当に悔しい。

● 広島／直爆 1.3km ／男性／ 13 歳

しばらくして「助けてくれー」という声がかすかに聞こえだし、生きていることを知りました。潰れた校舎から外に這い出てみたら、暗闇の中頭上に原子雲がグイッ、グイッと上昇していくところでした。「あれはなんだ！」と言っても誰もわかりません。しばらくすると月明かりくらいの明るさになりました。学校ばかりではなく周辺の家が全部潰れているんです。何が起こったのかさっぱりわかりません。シャツに小さな手の跡が少しついておりました。友だちの話によると一生懸命引っ張り出してやったと言うんです。９時過ぎまでそこにいたのだと思います。ところが大人が誰もいない。学校の先生もいない。火がまわってきたので助けを呼ぶ友だちを捨てて逃げました。

● 広島／直爆 1.4km ／女性／ 2 歳

祖母がひざまずいて、近所のおばさんたちの声が聞こえる方に向かって、「こらえてつかわさい、こらえてつかわさい」と手を合わせていました。助けてあげられないので、謝っているのです。

となりのおばちゃんだったと思うのですが、私の足をひっぱる手が見えたそうです。母が見ると、おばさんの手と顔は見えるけれど、体はがれきにうずまって見えないんです。そのおばさんのつらそうな目が、助けてくださいっていう目が母にすがりつくんだけど、母は心を鬼にして、私の足をつかもうとしているおばさんの手を払いのけていました。母は、その時から、助けてあげられなかったおばさんたちの顔を思い出すらしくて、それでもう、「鬼になった、私はあのとき、鬼になった」とよく言っていました。そのことで母は、70 年間近く苦しみ続けていたのです。

● 広島／直爆 1.7km ／女性／ 5 歳

意識の薄れた状態の母を、何の手当てもできないまま、祖父のひく大八車（荷物を運搬する木製の二輪車）に乗せて、母の実家のある山の手の古田町をめざして逃げました。その時刻がはっきりしないのですが、途中で出くわした光景が幼い私の目に焼き付いていて、今でも忘れることができないのです。私がそこで目にしたのは、爆心地に近い町で被爆して、郊外へ向かって逃げて行く

ダウンロード用PDFデータ

人たちの行列でした。それらの人は爆風や熱線を浴びたのでしょうか、頭から灰をかぶったように汚れていて、髪の毛は逆立ち、火傷した腕や体の皮膚がぼろ布のように垂れ下がっていました。私は最初、洋服が破れて垂れさがっていたのだと思っていたのですが、祖母の話では、洋服ではなくて焼かれた皮膚が垂れ下がっていたのだということでした。また、洋服も風圧で飛ばされたのか、焼けてしまったのか、ほとんど裸に近い格好の人や、裸足の人もありました。爆心地に近い所では、履いていた靴まで飛ばされたそうですから…。そんなふうに埃にまみれた、男女の区別もつかない人たちが、力ない足取りで、声を上げるだけの気力もなかったのでしょう、ただ黙々と、ゆっくり歩いていたのです。それはまるで、地獄絵に描かれた「幽霊の行列」のような光景でした。

● 広島／直爆 1.6km ／女性／ 9 歳

爆風で倒れた建物から人がむくむく出てきた。顔は血だらけ、衣服は引きちぎれたボロボロの姿だった。私の周りには火の手は上がっていなかった。お風呂屋さんの周りにたくさん住んでいた朝鮮の人が「アイゴー、アイゴー」と言いながら歩きはじめた。この人たちについていけば何とかなるだろうと、歩いていく人たちの流れについて行った。

● 広島／直爆 2.5km ／女性／ 4 歳

我が家は早稲田神社の麓の小さな広場に面していて石段もあった。その広場も石段も逃げてきた人でいっぱいになった。そこにずっと並んでいたのは勤労奉仕をしていた女学校の人たちで、男か女かもわからないくらいの状態だった。その女学生の人たちの親が探しにくると顔がわからないから名前を呼んで、服に縫い付けた名前を確認していた。

すぐ近所の井戸で、母がバケツで水を汲んでこようとしたが、我が家にたどり着くまでに水はなくなった。「お水ください」と言っている女学生の人たちにあげてしまった。母はずっと話をしなかった。生きていくのが必死だったということと、そういうことがタブー視されてたのだと思う。手に水をすくって女学生の人たちに一口ずつ飲ませていたという話を母から聞いたのは、母がもう 70 代後半で、お水を飲ませた指の先にその人たちの姿が思い浮かんでくると言って泣いて話せなくなった。それから私は聞くのもやめた。

● 広島／直爆 3.5km ／女性／ 7 歳

自宅へ向かう道中の光景は、68 年経つ今でも目に焼きついています。とても辛くて、忘れたいのですが、忘れることができません。目玉が飛び出している人、腕の皮膚がただれてびらーっとなっている人、真っ黒に焦げている人、内臓が飛び出している人などを目にしました。その時、倒れていた同い年くらいの女の子と目が合いました。その子は声を出すことができないようでしたが、目で「助けて」と訴えてきました。私は、その子を助けることができず、一杯の水さえ与えることができなかったことを、今でも後悔しています。そして今でも、その子の助けを求める目が鮮明に思い出されてしまうのです。

● 広島／直爆 1.3km ／男性／ 13 歳

お母さんが首のない赤ん坊を抱いて走っている。まさに地獄絵さながらのことを 13 歳で見ました。

● 広島／入市／男性／ 19 歳

駅は枕木がぶすぶすとくすぶり、暗い中を市内へ歩くが焦げた悪臭がする。路面電車は黒焦げで中は空っぽ。目的地の相生橋へと隊を組んで前進する。次第に明るくなると、鉄筋コンクリートや石造りの建物が辛うじて残骸をさらす以外は跡形もない。黒焦げの死体がごろごろと異臭を放つ異様さに呆然とする。前進を続けると焼け爛れた人々の群れ、屋根瓦など手を触れると崩れて、死体は白骨化し頭蓋骨だけがジクジクしていた。太田川、元安川には焼け爛れ水膨れの死体が一面に浮かび「地獄絵」とはこのことかと、ただ呆然とする。

● 広島／直爆 1.7km ／女性／ 5 歳

西大橋まで来ましたら、そこまでは何とか逃げてきたものの、喉の渇きに耐えられなくなったのでしょうか、多くの人たちが水を求めて川に群がっていて、さながら海水浴場のようにごったがえしていました。私たちは橋の上から見たわけですが、川の中には流されている人たちもありました。それらは既に死体となって流されていたのだと思われます。

● 広島／直爆 1.7km ／女性／ 5 歳

母は爆心地に近い町で作業していましたから、全身に熱線を浴びて大火傷をしました。それにもかかわらず、一人で家まで帰ってきたのです。一緒に行った多くの人たちは熱さや痛みに堪えきれず、川に飛び込んで行方の知れない人が多いので

ダウンロード用PDFデータ

すが、母は家まで帰ってきたのです。その途中には、壊れた建物とか瓦礫が道を塞いだりして、歩きにくい状態だったのですが、そのような健康な人でさえ歩きにくい道を、全身火傷した体で、カラカラに乾いた喉を潤すこともできないまま、家まで辿り着いたのでした。そして、祖父に私が無事であることを聞くと、ぐったりと倒れこんで動けなくなり、意識が朦朧としていったのだそうです。私の無事を知るまでは、力の限り頑張ったのだと思います。

● 広島／直爆 1.7km ／女性／ 20 歳

私の家では兄嫁が即死でした。兄嫁は離れにいたけど母屋に飛ばされて、母屋が 2 階建てだったから下敷きになって即死でした。家が燃えて骨も残っていませんでした。

県庁に勤めていた長兄は、ちょっと遅くに自転車で出勤し途中で原爆にあって、転んで足に怪我をしました。

9 月 16 日に避難先の四国に帰ったら、長兄が 8 月 23 日に死んでいたのを知ってびっくりしました。長兄は、火傷はなく左足に怪我をしただけでしたが、目から鼻から口から耳から全部、血を出して出血多量で亡くなりました。四国のお医者さんは原爆のことは分らなかったようです。が、原爆症だと思います。

● 広島／直爆 1.4km ／女性／ 2 歳

三日三晩、畑で過ごしておりますと、その周囲にある死体にハエがたかり、ウジがわくんですね。死体なんかハエで真っ黒になっていて。

けがしている人たちにもハエがたかり、傷口に卵を産みます。ウジがわくと痛いらしく、棒きれで取り出すんだそうですが、どんどん、どんどん、みなさん亡くなっていかれたそうです。

● 広島／直爆 3.5km ／女性／ 16 歳

軍医部で負傷者の治療が始まった。「助けてください」「お水ください」の声。火傷に赤チン、リバノールを塗る、ドラム缶のバターを塗る。足の裏以外は全身火傷したお母さんが、赤ちゃんを診てもらうため、必死に軍医部まで来た。背に負ぶった赤ちゃんを見て、私は思わず「赤ちゃんの首がない」と言ってしまった。お母さんはその場で倒れて、亡くなってしまった。私は、あの時なんでそう言ってしまったのか。今もあのお母さんに申し訳ないという気持ちが消えない。

● 長崎／入市／男性／ 12 歳

顔を半分怪我した女子挺身隊の女性が、「水を飲ませてください」と言うんです。どうぞと言ったら水を飲んだとたんにガクッとなって伏せてしまった。今思えば名前やどこまで帰るのか聞けばよかった。でも、私も家族がどうなっているか分からなくて他人どころではない。人がその辺で倒れていても平気なんです。もう神経が麻痺してしまっていた。

● 広島／直爆 3.5km ／女性／ 16 歳

8 月 9 日私は市内を通り己斐にいた妹を迎えに行った。市内には首が飛び、腕が飛び、内臓が飛び出した遺体が転がっていた。電車のつり革につかまったまま亡くなっている人もいた。市内を通ったので、私は直爆のほか二次被爆もしている。軍の治療は偉い人から、生きられる者だけを助けるというものだった。8 月 15 日終戦の玉音放送の時、私は隊長の治療をしていた。包帯が膿でとれず、交換するのがたいへんだった。ガバガバと肉まではがれた。

● 長崎／直爆 4.0km ／男性／ 9 歳

昭和 20 年 8 月も夏休みだったので 7 日から小 1 の妹と私の 2 人で爆心地から約 4 キロメートルのところにあった親戚の家に泊まりに行っていました。

9 日に長崎に原爆が落とされ、伯母・従姉・私で自宅まで親や兄弟を捜しに行きました。祖母は家の下敷きになって死んでいました。母と下の妹も即死。中学 4 年の兄は学徒動員先で死亡、姉は学徒動員先から帰ってきて亡くなりました。父は首の後ろに火傷を負っていて、翌年に原爆症で亡くなりました。

● 広島／入市／男／ 11 歳

10 ～ 11 時ごろ、皮膚がザラむけになった人たちが避難してきた。我われ 6 年生は小学校に収容された人たちの看護の手伝いをした。体にわいたウジ虫をピンセットでとったが、その人たちも翌日には亡くなり、運動場で遺体をまとめて焼いた。骨は人数分でわけた。

「水」「水」という声が忘れられない。亡くなるんだったら水をあげればよかった。あの時は兵隊に水を飲ますことを止められていた。

● 長崎／直爆 2.2km ／男性／ 20 歳

隣に寝ていたのは小学 5、6 年生ぐらいの男の

ダウンロード用PDFデータ

子で、中学1、2年ぐらいの兄がついていました。その子の頭はパックリと割れ、白い脳みそが見えていました。その子が、兄に「お父さんはどこ？お母さんは？」と、夜になってもわめくので、寝ている人から「うるさいぞ！」と怒鳴られたりし、付添いの兄はおろおろするばかりでした。そのうちに私も眠ってしまい、目を覚ましたらその子は亡くなっていました。本当にかわいそうでした。

● 長崎／入市／男性／ 12 歳

新興善国民学校は怪我人の収容所になっていました。頭を並べて一列 15 人ずつ、それが 4 列で 1 階から 3 階まで満員でした。水をドラム缶で煮沸して傷を洗うだけで薬は何もないですからバタバタと死んでいく。死ぬと担架に載せて校庭に持って行って、井桁に積んでガソリンをかけて焼く。私はそれまで黒い焼死体はずっと見てきましたから何とも感じないのですが、ガソリンをかけて焼かれると死体が動くんです。それはちょっと……地獄絵図とはあのことです。それをいつまでも覚えていて、時々思い出します。髪はボロボロになっていて男か女かもわからなくなっている。私はこの世には神はいない、悪魔だけだと思いました。

● 広島／直爆 2.3km ／女性／ 5 歳

8 月 6 日の原爆の日の状況は今でも色鮮やかに絵巻物のように脳裡に焼き付いている。とくに、血だらけの妹と父の姿。自分が原爆投下直前までお腹が痛くて寝ていた布団が二つにちぎれ、庭の片隅にあった柳の木に垂れ下がっていた事実。避難所となっていた僧侶の学校の校庭に敷かれた莚に悶えていた被災者。溝川の中を歩いていた被災者である。その後も治療所の小学校で見たウジ虫が這っていた親子の死体。毎日小学校で夕方に焼く死体の匂い。被爆 3 週間後に妹の頭に残っていたガラスを除去するために行った無麻酔の手術等の記憶である。

● 広島／直爆 3.5km ／女性／ 7 歳

爆心地から 500 メートルで被爆した親戚のお姉ちゃんは、背中からお尻に掛けて焼けただれ、足の裏から甲まで杭が貫通した状態で、私の家まで助けを求めに来ました。大好きだったお姉ちゃんのはずなのに全く識別できませんでした。熱湯で煮沸した手拭いで体液を拭い、傷口にわいた蛆虫をとってやりました。必死に看病しましたが、数日後、お姉ちゃんは、私の腕の中で亡くなりました。14 歳でした。

大きな傷を負わずに済むも下痢に苦しめられていた親戚の当時 10 歳のお兄ちゃんも、家に助けを求め、やってきていました。しかし、8 月の終わり頃いきなり耳や鼻から血を流し、口からは血の塊を吐いて亡くなりました。放射能の影響でした。

● 広島／直爆 1.3km ／女性／ 1 歳

姉は火傷がひどくて 8 月 26 日亡くなりました。兄は中学 1 年生、学徒動員で朝早く爆心地近くで道路の作業中、先生はじめクラス全員被爆死しました。しばらくの間、母は風の音で窓とかドアの音がドンドンすると「恒（ひさし＝兄の名前）が帰ってきた」と飛び起きていたそうです。兄がどのような亡くなり方をしたのか、母はいつも思っていたようです。原爆で 2 人子どもを亡くした母はさぞ苦しかったでしょう。

● 広島／直爆 1.3km ／男性／ 13 歳

「原爆で何を思い出しますか」と聞かれるんですが、ウジとハエ、そして匂いです。どうしてこんなに広島にハエが集まったのか。集まったのではないんです。生きた人間、あるいは死んだ人間から出てきたハエなんですね。

● 広島／直爆 1.7km ／女性／ 5 歳

私は母の傍にずっと付き添っていましたが、8 月上旬の 30 度を超す暑さの中、辺りには、異臭が立ち込めてました。魚 1 匹焼け焦げてもかなり臭いますね。全身火傷で、死を待つばかりとなった人たちの集団から発生するあの臭いは、肉親でなければ堪えられなかったのではないでしょうか。後でその臭いを思い出すと食欲がなくなる程でした。あの臭いを忘れるまでに、数年かかったほどでした。

● 広島／入市／男性／ 15 歳

下関では、2 度の大空襲を受け、火に取り囲まれた経験もあった。空襲には慣れており、焼け跡や死人はたくさん見てきたが、8 月、原爆投下された広島はさらにひどく、町全体が「べしゃっ」と押しつぶされた感じであった。

● 広島／直爆 1.6km ／女性／ 9 歳

火事がおさまると広島駅が一直線で見えた。本川は、どこの誰かもわからない真っ黒に焼け焦げ

ダウンロード用PDFデータ

たふくれあがった人たちが、潮の満ち引きに揺られながらたくさん浮かんでいた。

● 広島／直爆 1.4km ／女性／ 2 歳

そのうち、衛生上の都合ということで、トラックみたいな車の荷台に、どんどん死体を積んで、ところどころに運んで、そこにガソリンをかけて、燃やすんですね。その死体を焼く臭いが広い畑の中に充満していて、その臭いを母は忘れることができなかったと申しておりました。そうこうしているうちに、そこらじゅうに死体の灰の山ができるんです。そのうち風が吹いて、雨がふって、灰の山はいつのまにかなだらかになっていったというんですね。だから、その時、何人くらいお亡くなりになったのか、もうわからない、どこの誰だったかもわからない、みんな探している人がいるでしょうに、わからない。みなさん、人間らしく死ねなかった。愛する人がいたでしょうに、探している人がいたでしょうに。それを思うとつらいと、母はいつも申しておりました。

● 広島／入市／男／ 11 歳

広島一中まで行ったが兄は捜し出せなかった。

母はその後も一人で 1 週間くらい探しに行った。中学校のプールのそばで兄の名前の刻まれたアルミニウムの弁当箱を見つけた。母が米をなんとか近所から分けて貰って作った弁当を食べられないままに、兄は死んでいったのかと思う。

● 広島／直爆 2.5km ／女性／ 4 歳

9 月 11 日に父は亡くなった。全身蜘蛛の巣を張ったような状態で紫色になって 3 晩くらい苦しんで亡くなったと母から聞いている。私は障子の陰から父を見ているような雰囲気を覚えているが、「こっちへきなさい」と言われても行かれなかったのは、多分そのうめき声とかなんかが怖かったんじゃないかなと思う。父を荼毘にふす薪を探すのがたいへんだったと母から聞いている。土手の上から母と弟妹 5 人で煙を見送った。

● 広島／直爆 3.5km ／女性／ 16 歳

1946 年 4 月、父は床につき、隣村の医者は、血便と吐いた物を見て「これはチフス、伝染病ではないか？」と言い、私たちの下痢も「チフスではないか？」と言った。4 月 19 日朝、父が鏡を見て、「俺はもう死相が現れた。もうダメだ。おまえは長女で辛い思いをさせたけど、母親と妹、弟を頼む」と遺言であった。そのころ父は、髪の毛がバサッと束になって抜けたり、顔にブツブツ紫の斑点ができた。父は、重湯を一口食べて、やっと手に入ったリンゴを母が摺って、それをちょこっと食べて死んでいった。

● 広島／直爆 3.5km ／女性／ 16 歳

8 月 6 日朝、母は市内の建物疎開の作業に行く予定だったが、体調が悪く、隣の奥さんに作業を代って貰って、家で休んでいた。御幸橋の向こうは焼けたが我が家は焼けなかった。隣の奥さんが勤労動員の作業中の大火傷で帰ってきた。赤ちゃんは、火傷の母親の顔が誰か判らず、泣いてお乳を飲んでくれない。赤ちゃんに顔をそむけながらお乳を上げる隣の奥さんの姿を見て、母は、「申し訳ない。申し訳なかった」と、後に死ぬまで悔やんでいた。

● 広島／直爆 3.1km ／女性／ 13 歳

学校を欠席したため私は助かり、クラスメートは全滅した。

ようやく学校にたどり着いた友に何もしてあげられなかった。

欠席したので無事だったのを幸運といえない。心の傷になっている。

親友の家に一度行ったが、手も握れぬままついにその後家に入ることもできなかった。

後悔ばかり。

ダウンロード用PDFデータ

2．その後の人生について

● 広島／直爆 1.7km ／女性／ 5 歳

それから 1、2 年して、焼け跡にいた私たちを迎えに来てくれた親戚筋の若い男の人と、荷馬車をひいてくれた馬が相次いで亡くなったのです。彼らは、原爆が投下されて 4 ～ 5 日経った街を、東の端から入って中心地を通り、市内をあちらこちら探しながら私たちのいた西側の町までたどり着いたわけですから、残留放射能を浴びたことは明らかです。誰もが原爆との因果関係を疑ったわけです。馬もろともですから……。まるで私たちの身代わりになったかのようで、子ども心にも申し訳ないような、やるせない気持ちになったことを覚えております。そして、自分たちにもいつ襲いかかるかもしれないとの恐怖心もなかったわけではありません。被爆が原因で亡くなる人が他にも周囲にあったからです。

● 長崎／入市／男性／ 16 歳

1950 年ぐらいまでほとんど毎日、鼻血が出たり出血したりした。抜け落ちた髪の毛はその後ちゃんと生えた。1991 年に「胆のうがん」になり開腹手術で摘出した。その後、転移はないが、脊髄の調子が悪く、腰痛、膝痛で通院。けん引などをずっと受けている。そして今なお、尿潜血が続いていて、検診のたびに指摘される。

● 広島／直爆 1.7km ／女性／ 5 歳

被爆後 4 年経った小学校 4 年生の夏に、原因不明の奇病に襲われました。体がだるくて何もできなくて寝たきりとなり、食べ物も受けつけないという状態でした。田舎に住んでいた時です。村にただ 1 軒ある老齢の医者がひとりいる医院で、病名も不明のまま特別な手当てもなされず、私が被爆しているせいだろう、とされたようです。私は食事が摂れないため骨と皮に痩せて、薬を飲んでもその薬も戻してしまって受けつけませんでした。夏休みを挟んで 4 か月間の長期欠席をしましたが、医者にも見放され、2 日間は生死をさまようという体験をしながら、その後奇跡的に回復して、医者や家族を驚かせたそうです。何が原因だったのか、何が回復への力となったのか、今もって分らないままなのです。

● 長崎／入市／男性／ 12 歳

身体がだるいのはありましたけれど、それは気持ちの問題だと思って病気とは思わなかった。ただ傷を受けると治りにくい。あれがいちばん困ります。蚊に刺されても化膿してしまう。

● 広島／直爆 1.4km ／女性／ 2 歳

ぶらぶら病といいまして、被爆者の方は、だいたい、体がだるくなるんです、貧血の時のような、船酔いのような状態なんですね、若いころ、よく、私はそうなっていました。父は、「若い娘のくせに、ぶらぶらして、ちゃんとせい」って、いつも怒っていました。でも、母は父がどこかへ出かけていなくなると、そっと来て、「ごめんね、ごめんね」って、私にいうんです。被爆させたことが申し訳ないというんです。「（婚家の）親をほっといて（広島の）実家に帰るから、挙句の果てに子どもたちを被爆させてしまった」と、父からさんざん叱責されたらしいんですね。

● 広島／直爆 3.5km ／女性／ 7 歳

私の娘（次女）は、2010 年にがんを発症しました。娘に「なんで私ががんになるの！」といわれ、ものすごく辛い思いをしました。娘は、2011 年に他界しました。

● 広島／直爆 2.0km ／男性／ 3 歳

45 歳で直腸がんになったとき、その 2 年前に父がすい臓がんで亡くなっていたので、被爆 42 年目にして原爆のせいだと確信した。自分だけでなく子や孫にまで健康への不安と精神的不安がずっとある。放射線は被爆者を苦しませ続ける。被爆者の体の中には原子爆弾がいる。細胞を傷つけ何十年後にどんな病になるのか不安はつきない。

● 広島／直爆 1.3km ／女／ 1 歳

佐々木禎子さんは自分と同世代。私も白血病になったらどうしようと思っていた中学時代です。

結婚して子どもができたとき、ちゃんとした子が生まれるかずっと心配でした。

40 歳のとき乳がんになり、「あー、やっぱり来た」と思いました。いつがんになるかと思っていましたから。悲しかったですね。子どもが中学、

ダウンロード用PDFデータ

高校生。その子が 20 歳まで生きたいと思いました。しかし早期だったので今まで元気でおります。

● 広島／直爆距離不明／女／ 10 歳

ヒバクシャだということをとくに感じたのは子どもを出産したあと。銀行に勤めて結婚し、1960 年に出産したが 1 年間も出血が止まらなくなった。東京の医師たちは原爆症の知識もないため、なんの役にもたたない手術をされ、その後は、子どもには恵まれなくなってしまった。子どもを育てなければならないし、やせ細り貧血で身体も心もボロボロの状態だった。

● 広島／直爆 1.7km ／女性／ 5 歳

28 歳で第一子を出産しました。以前、被爆した女性に小頭症などの奇形児が生まれるという症例がニュースになり、私はそれを聞いていたために、長男を身ごもった時、心配のあまり悪阻が強くて、栄養摂取が殊に必要な時期にもかかわらず、出産の日まで思うように食事をとることができませんでした。ですから、痩せこけた体で酸素吸入しながら出産するはめになりました。自力での出産が不可能となり、鉗子分娩に頼るという異常分娩を経験したわけです。幸運にも、そんな悪条件の中で生まれたにもかかわらず、五体満足な元気な子どもを授かることができました。

● 広島／直爆 1.7km ／女性／ 20 歳

わたしは被爆したということを隠して結婚しました。お見合いのときに広島のことは一言もいいませんでした。私は被爆者手帳を取る気はさらさらなかったのですが、母のすすめで取りました。母は 1951 年に亡くなりました。医者もどのように治療していいかわからず、熱が高ければ熱さましをくれるとかでした。母は口から歯茎から鼻から目からも出血しました。出血多量でした。

結婚して 3 回流産しました。寒いのに一生懸命お風呂場の掃除、洗濯なんてやっていたから、それで流産したんだと私は思っているんですけど。その後はもう子どもができなかったですね。

でも今思うとできなくてよかったかななんて思います。やっぱり市街を歩き回っていますから、やはり自分自身があんまりうれしい状態ではないですからね。

● 広島／直爆 2.3km ／女性／ 5 歳

毎年 8 月になると「原爆のその後」が週刊誌で取り上げられ、「この一年に何処で、誰が、どのような病気で亡くなったか」が何ページにもわたり記事になっていた。被爆者の私と家族は、記事の中に同じ地区に住んでいた知り合いの人はいないか、ドキドキしながら目を通していた。誰も見つからなくとも、決まって心が重くなり、何時、家族の誰かが死に襲われるのではないかと不安に襲われた。毎年来る 8 月のその行事は、私にとってつらい、避けたいものであり、広島に近づきたいとは思わなくなった。

● 長崎／被爆状況不明／女性／ 1 歳

結婚の時は、被爆者手帳を取得していなかったので、夫には被爆したことをまったく話さなかった。出産時も手帳がなく、医師に話せなくて不安だった。子どもの健康には気苦労がつきなかった。子どもが小学校 3 年の時に手帳を得ることができ、家族にきちんと話した。

● 長崎／直爆 3.0km ／女性／ 13 歳

被爆のため体調を崩し何回も死ぬのではないかと恐怖にかられた事もありました。田舎では原爆の後遺症か、指にイボのようなものが重なってでき、田舎の子どもたちに「鬼娘、鬼娘」といじめられました。

● 広島／直爆 3.5km ／女性／ 7 歳

被爆者ということで、就職活動の際にも差別を受けました。結婚しようとした際には、相手方の親戚の伯父さん（本家）に「あなたに問題があるわけではないが、被爆者の血を家系に入れることはできない」と言われ、結婚できませんでした。

当時、被爆者の 4 人に 1 人は自殺を考えた、といわれています。父も自殺を考えたそうですが、私たち子どもの寝顔を見るとできなかったといいます。

● 長崎／直爆 3.0km ／女性／ 13 歳

結婚して、五体満足に生まれてきてくれた二人の娘を支えに生きてきました。

娘は両親が被爆者であるため、婚約が破談になりました。親としてこんなに身を切られる様な苦しい思いをしたことはありません。娘はいま、3 匹の犬のお母さんをして居りますが、内心私はとても辛いのです。

● 広島／直爆距離不明／女性／ 10 歳

原爆の日の夕方降ってきた雨で相当被ばくしていると思う。その後、体調は悪く、同級生と比べ

ダウンロード用PDFデータ

て体力がなかった。子どものころにいろいろなものを見てしまったので、ノイローゼ状態になって20代になっても治らなかった。きのこ雲は今でもポジフィルムのように脳裏に焼き付いている。きのこ雲のあの赤さは、町と20万人の人びとを焼くつくした赤色。夏になると心身ともにつらくなりたいへんだった。内科に行ったら帰ってくれといわれたこともある。精神的なケアなど当時はなかった。

● 広島／直爆2.5km ／女性／ 4歳

母は80歳に近くなるころに上京し、自分で老人ホームを探して入った。そこで被爆体験の手記を書いたが、その後うつ病になってしまった。「食べたくない。何の注射もしないでくれ、私は死にたい」と口走ったので我が家に引き取った。ずっと胸が痛いとか訴えたが調べても悪いところが出てこない。おそらく手記を書いたために、その当時のこと、その後で自分の苦しかったことをいっぱい思い出してうつ病になったのだと思う。

● 広島／直爆3.5km ／女性／ 16歳

何度死のうと思ったかしれない。家族がいなければ死んでいたと思う。父が死ぬ前、「お母さんと妹、弟を頼むよ」と言ったあのひとことがあったから、今まで生きてきた。生きていたからこそ、こうやってみなさんとお話もできる。「とにかく被爆したあの時に亡くなった方がたのあの形相、死にたくなかった辛さ、それをみなさんに知らせたい。私もあと3カ月で85歳になるが、生かされたこの命を大切にして死ぬまで語り継いでいきたいと思う。事実を学んでもらえば、戦争がいけないことが判ると思う。

● 広島／直爆1.7km ／女性／ 5歳

簡単には話せないような苦境を経験しましたが、私の場合は、あの日、一瞬にして虫けらのようにして殺された人たちのことを思えば、そしてまた、長い間、後遺障害に苦しんで亡くなった人たちも見ておりますので、自分の味わったそういったことは、微々たるものでしかないと、一日一日、感謝しながら生きてきました。あの地獄の中から生かされたという気がします。また、私の場合は31歳で命を絶たれた母の分まで生きなければ……という気持ちとともに生きてきました。

● 長崎／直爆2.2km ／男性／ 20歳

三男が会社の研究所に勤めており、放射性物質を扱うからと安全衛生法に基づく健診を受けましたら、白血球が少ないからこの放射線を扱う仕事はしないほうがいいでしょうと言われたという。その報告を受けた時はただ頭を下げていました。それから数年後、中学生の孫が、白血球が少ないから精密検査を受けてくださいという、陸上部の監督からの手紙を持ってきました。その時は本当に泣きました。孫やひ孫に障害が出ないことを祈る思いです。

● 長崎／入市／男性／ 12歳

30人しかいない小学校の友だちの11人が50代から60代にかけて死んでいったんです。胃がんだとか骨髄異形成症候群だとか再生不良性貧血だとか多臓器不全だとか結核だとか。自殺したのが2人。そういうのは原爆とは関係ないかもしれませんし思い過ごしかもしれませんけれど、友だちが次々に死んでいくのを見ていると、原爆に関係があるに違いないと思わざる得ないわけです。そういうのが一番の実感なんですね。

● 長崎／直爆3.6km ／女性／ 3歳

家族に何事もなく、私にも被爆の影響がなかったせいもあって気にもしていなかったんですが、1964年3月にそれまで元気だった妹が悪性腫瘍に罹り、発見から3カ月で亡くなりました。生後8カ月で被爆して亡くなったのが19歳。短大生だったので学校を出たらいろいろ楽しいことをやりたいと言っていたんですが、あっと言う間の出来事で、何が何だかわからないうちに亡くなってしまいました。大学病院に入院していたのですが、これは明らかに原爆が原因だから解剖させてほしいと言われ、両親は考えた末に被爆者の役に立つのならということで承諾しました。妹の無念さ、父や母の苦しみ、私にとっても大変ショックなことだったので、なかなかみなさんにお話することができませんでした。

1980年に住んでいる地域に被爆者の会を発足させて、そのころから一緒に活動していた4歳年上の女性がいたんですが、彼女も68歳という若さでがんで亡くなりました。「こんな悔しいことはない」と私に言いながら亡くなっていった、その言葉が心に残っています。

妹もそうですが、彼女らの気持ちを考えて原爆の死没者に対する国の償いを求める運動、核兵器廃絶のための運動に参加しています。

ダウンロード用PDFデータ

3．いま、被爆者として訴えたいこと、世界と次世代の人びとにこれだけは伝えておきたいこと

● 広島／直爆 1.7km ／女性／ 20 歳

本当に戦争はしてはいけない。戦争っていうのは人殺しですから。相手を殺さなくちゃ自分が殺される、だから戦争は絶対してほしくないと思う。映画やアニメなんか見るとカッコがいいですけれど、決してあんなもんじゃないんです。人殺しなんです。今の若い人に本当に伝えたいのは、戦争はしてほしくないということだけ。ましてや今は核の時代ですから一発で火の海になりますから。運よく私は死ななかったけれども、戦争すれば死ぬんですから。一つしかない母や父からもらった命。命を大事にしてほしい。

● 長崎／入市／男性／ 12 歳

原爆投下正当論というものがあります。原爆を投下することによって多くの日米の人命を救った、原爆のお蔭で早く戦争が終わった、といっている。だから原爆投下はいいことをしたんだと。それが私どもは一番悔しい。

● 広島／被爆状況不明／男性／ 4 歳

ヒロシマ・ナガサキに投下されたアメリカの原子爆弾は、一瞬にして何十万という人の命を奪いました。戦争とはいえ人道的に許せる行為ではありません。形あるものすべてを焼き払い、人の命を殺傷・破壊しつくしました。そうしてあれから 69 年経った今でも多くの生き残った被爆者が放射能の後遺症に苦しんでいます。

核兵器を一発残らず廃棄すること。それがノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、ノーモア・ヒバクシャを実現できる唯一の道だと思うからです。アメリカのオバマ大統領は「核兵器のない世界を！」と世界に向かって演説し、訴えました。しかし、核兵器はなくなっていません。

日本は非核三原則の法制化と核の傘からの離脱を実現すべきです。

● 長崎／入市／男性／ 12 歳

アメリカが原爆を投下したのだから、今度はアメリカ人の頭の上に原爆を投下して、という復讐の連鎖は断ち切るべきだ。原爆をなくすことが最大の願いです。

● 広島／直爆 1.7km ／女性／ 5 歳

被爆者が 100 人いたら、100 通りの経験があります。多くのことを知る人たちのなかにも、自分の体験を話そうとする人はそれほど多くないのが事実です。思い出すのも辛いと、家族にさえも一切話さないまま亡くなった人が多いのです。69 年経った今でも被爆者であることを隠し続けている人もあります。話す決心をして話してはいるものの―私も含めて―体験したすべてを話せる人ばかりではないのです。放射能の及ぼす影響が未だすべて解明されていないこともあり、諸説取り沙汰されていますので、公にしたくない場合があるわけです。これから先の二世、三世にまで影響を及ぼすかもしれないという懸念を抱きながら過ごしている人が少なくないということです。

● 広島／直爆 3.1km ／女性／ 13 歳

早く核兵器を廃絶せよ（そのために、アメリカのオバマ大統領はノーベル賞をもらったのだから）。日本政府の国連での態度は憤りのほかありません。外国の平和関係の人も呆れている。また、このことを十分に伝えないメディアにも憤りを感じている。原爆は人類と共存できない。放射能の恐ろしさにもっとめざめるべき。

● 広島／直爆距離不明／男性／ 15 歳

核と名のつくものは、原発であれ原爆であれ絶対にあってはならない。事故は必ず起きる。それなのに外国にまで売ろうとしている。いつかたいへんなことが起きる。天罰が来る。

私たちは亡き被爆者に「安らかに眠って下さい。過ちは繰り返しませぬから」と誓っています。憲法九条は人びとの犠牲の上に成立したものです。日本の命となっている憲法九条を守り、生きる。守るだけでなく生きなければならないと思う。

● 広島／直爆距離不明／女性／ 10 歳

今は世界中にたくさん核兵器や原発がある。核廃棄物の最終処理もできていない状態。原爆は爆

ダウンロード用PDFデータ

弾、原発は発電所、用途は違えど同様に危険なモノだと思う。原発は全部兵器になりうる。平和利用などありえない。

● 長崎／直爆 4.0km ／男性／ 9 歳
　戦争は悲しいなぁと思います。就職や結婚のときには親がいないことで苦労しました。昔、兄と叔母の家で布団を並べて寝ながら「兄さん、なんで僕らはこんな悲しい目にあわんといかんのやろか」と話したことがあります。今も原爆のことを口にすると涙がでます。娘や孫にこんな思いを味わいさせたくありません。

● 長崎／直爆 3.6km ／女性／ 10 歳
　平和憲法を守ること。戦争をしないこと。
　アメリカ政府に）
　核の抑止力はありえない。核兵器は削減ではなく、廃絶でなければならない。
　日本政府に）
　アメリカに追従するのではなく被爆国として誇りを持って平和な世界の先頭に立つべきです。

● 広島／直爆 2.3km ／女性／ 5 歳
　戦争の愚かさはいうまでもないこと。核戦争の時代となっては、人類の知恵をもってすべてを乗り越えて戴きたい。平和憲法は人類の宝として守ってもらいたい。
　私の残したいことは次の二首である。
　原爆の非人道を怒りしも加害の歴史しかと見詰めむ
　正当なる言いわけなぞ無し戦ひを捨つる勇気と核の廃絶

● 長崎／入市／男性／ 12 歳
　戦争を知らない二世、三世の政治家が、戦後政治からの脱却といって、憲法九条を変えようとしています。とんでもないと私どもは思います。戦後 70 年になろうとしていますが、日本の自衛隊からひとりも戦死者は出ていない。これは憲法九条のお蔭です。アメリカは太平洋戦争のあとに何回戦争をしているか。そして決していいことはない。そういうことを思うと、私どもはこのことを若い人に伝えていって、これを維持していただきたい。

● 広島／直爆 2.0km ／男性／ 3 歳
　世界の人びとが「ヒロシマ・ナガサキ」のあの忌まわしい出来事と、その教訓を忘れてしまい、同じ過ちを繰り返すのではないかと心配しています。とくに日本では、現憲法の改悪の動きがあり、再び戦争をする国になるのではと心配。「戦争をする国」を子や孫の世代に渡してはいけない。今ほど戦争への危険を感じるときはない。平和は自然にはやってこない。みんなで声をあげて平和を守ろう。

● 広島／直爆 2.5km ／女性／ 4 歳
　ワシントン D.C.で証言した。「よく敵国に来て証言されましたね。憎らしくはないですか」と聞かれ、「憎いことはなにもありません。憎しみからではこの証言はやっていけません。核廃絶は言っておれません」といったら、通訳をしている人が泣いて伝えられないという状況になった。
　怒りはない。たぶん幼かったせいだろうと思う。私が思うには、怒りとか苦しみとか悲しみとかそういった感情は母が業（ごう）として全部背負ったと思う。だから私は「世界中のお母さんを泣かせないで」というのを私のスローガンにしている。

● 広島／直爆 1.6km ／女性／ 9 歳
　私たちにできることはいろいろな人たちに原爆の恐ろしさを知ってもらうこと。
　二度とふたたび戦争のない、平和な未来であるようにと。今は受け継ぎ手は多くはないし、話しても通り過ぎてしまう人が多いけれど、自分でできることをしないと、夢も希望も一瞬に奪い取られ死んでしまった人たちに申し訳ない。

● 広島／直爆 3.5km ／女性／ 7 歳
　被爆者は年々高齢化しています。間に合わなくなる前に歴史の事実、真実をできるだけ若い人に伝えたいです。若い人がこれからどのように世界を切り開いていくかは、若い人の考え方、行動にかかっています。私たち被爆者が抱える問題は、昔話ではなく、核兵器が存在している限り今もなお続いています。苦しんでいる被爆者はまだ大勢いるのです。
　そして、これは未来を担う次の世代にも起こりうることです。過ちをくり返さないために、私は「ふたたび被爆者をつくってはならない」と被爆体験を語っているのです。

● 広島／直爆 1.7km ／女性／ 5 歳
　被爆者はこれまで半世紀以上、平和を願う人びとととともに「ふたたび被爆者をつくるな」、「核兵器も戦争もない世界を」と、国の内外に訴え続

ダウンロード用PDFデータ

けてきました。けれども平均年齢が 78 歳になった今、「生きている間に核兵器のない世界達成を！」の願いは叶えられそうもなくなってきました。次代を担う若い世代のみなさんにバトンを繋ぐ時期となりました。若いみなさん方に、平和はただじっとしているだけでは得られないものであること、努力なしには得られないものであることを、過去の歴史から学んでほしいと思います。そして、そこから教訓を学びとって再び争いに巻き込まれないよう、「平和を、人の命を最も優先する世界」を目指してほしいと思います。私は「平和は人と人の交流から生まれるもの」と信じます。次代を担う若者は、自分の得意とする様々な分野で世界の若者と交流を深め、お互いの文化を理解し合って欲しいと思います。「交流」を深めた時、「争い」は遠ざかるものと確信しています。

● 広島／直爆 1.2km ／男性／ 16 歳

みなさん方に、原爆被害、核被害の継承のリーダーになっていただきたい。自分の問題として考えない限り、核兵器廃絶が自分の問題になってこないということをみんなに伝えて欲しい。「今日の聞き手は明日の語り手」と言われるが、「僕は私はそんな被害にあいたくないんだ、だからほかの人たちにもあわせたくない」という世論を広めてもらう、そうして世論が大きく高まっていかないと核兵器の廃絶というのはできないと思う。

● 広島／直爆 3.5km ／女性／ 7 歳

日本政府は、戦後、原爆の被害を隠蔽していました。

再び被爆者をつくらないための活動をしていたなか、2011 年に東日本大震災が起こりました。そして、政府はまた、福島原発での正確な被害を国民に伝えませんでした。結局、当時と政府の体質は全く変わってはいないのです。

● 広島／直爆 1.4km ／女性／ 2 歳

被爆者の話は 70 年前の苦労話ではなく、目の前にある危機だというふうに聞いていただけたら、そういう時代に私たちは生きているんだという意識を持って聞いていただけたら、亡くなった人たちの苦労に少しは報いることになるのではないか。

私は、それを母に誓いました。「核のない世界の実現を、できるだけ、私も、人のことだと思わないで、ちゃんと受け止めるね」と母の墓前に誓いました。（福島原発事故も）福島の問題じゃなくて私たちの問題だとして受け止め、、福島の人たち心を寄せられればいいなと思っています。

● 広島／直爆 1.3km ／男性／ 13 歳

今から 30 年前、日本政府は「およそ戦争という国の存亡をかけての非常事態のもとにおいては、国民がその生命・身体・財産等について、その戦争によって何らかの犠牲を余儀なくされたとしても、それは、国をあげての戦争による『一般の犠牲』として、すべての国民がひとしく受忍しなければならない」といいました。この考え方は今も微動だにしていません。

被爆者はまず国に謝れと言っている。殺された人に謝れ。謝ったらもう戦争はできません。被爆者も平均年齢が 80 歳になったから、命のバトンをみなさんに渡してあの世に行きたいと思います。

● 長崎／直爆 3.0km ／男性／ 13 歳

原爆被害だけではなく国にあの戦争に対する責任を認めさせないと、今の憲法をぶち壊してまた戦争をするという路線を、憲法を守る路線に変えさせることはできない。被爆者は過去の被害だけにこだわってやっているのではない。国の責任を認めさせなくては「ふたたび被爆者をつくる」ということが起こってしまう。語り継ぎたい、次の世代の人たちに判っていただきたいことはそういうことなんです。

● 広島／直爆 2.2km ／男性／ 1 歳

軍人の戦没者は 230 万人、国民全体だと 310 万人ですかね。無謀な戦争に突入したことは、誰がみても判っていたのではないでしょうか。戦争を 1 年早く終わらせていれば、死なれた方々が半分ぐらい違ったのではないでしょうか。沖縄とか原爆とかフィリピンとか。東京の空襲でも 10 万人ぐらい亡くなったそうですから。戦争の責任もうやむやになっています。

● 長崎／入市／男性／ 12 歳

被爆の体験を聞くだけ、喋るだけでは核戦争の非条理っていうのは説明できないと思っています。歴史的な背景を勉強した上で人の話を聞いて、それを自分の頭で組み立てていくということをやらないと。理論で裏付けられるっていうことが怒りの根本になってくるし、運動も長続きするものになるんじゃないかと思っています。

ダウンロード用PDFデータ

聞き取りの感想、受け継ぎ手として世界と次世代の人びとに伝えたいこと

本冊子の１～３項目は被爆者が語った言葉です。それを聞き取り、書き起こし、まとめたのは、被爆者のこころを受け継ごうとする若い世代の人たちです。

被爆者との共同作業にあたった人たちの感想と決意を紹介します。

（編注）学生をはじめ、幅広い年代の、さまざまな立場のみなさんが、この取り組みに参加しました。寄せられた感想のうち学生層からのものは、わかる範囲で聞き取り当時の学年を末尾に付しました。

■ 戦後をたたかい、勇気を振り絞って証言してくださっている数少ない被爆者の方に、この現代を背負って私はいかに応えていけるだろうか。「伝えきれないよ。想像できない世界だから」とＮさんは言う。その通りだと思う。でもだからこそ私はその言葉をありったけ受けとめ、想い、仲間たちの心に届けたい。その人たちが世を去る間際に、私たちに伝えきれないものを伝えようとしてくれている。だから私は受けとめきれないものを受けとめよう。確かにバトンを受けとろう。（高校２年）

■ 被爆当時だけではなく、被爆者であることを結婚相手やその家族に話すことができなかったというお話や、ご自身の娘さんに「お母さんは被爆者なの？」と訊かれ、娘さんの身体の調子が悪くなると自分の責任だと自己嫌悪をしてきたという戦後のお話なども聞くことができた。

今回初めて被爆者のお話を聞き、いわば一番輝き、自由に過ごせるべきときにつらい経験をされていたことにショックを覚えた。原爆や戦争の体験がその後の一生に大きく作用してしまうものであることを実感した。このような経験をされてきた方の思いを、たくさんの次の世代が受け止め、一人ひとりの「思い」が消えないように伝えていきたいと思った。（高校３年）

■ 平和のこと、社会のことに興味を持っている高校生は世の中にたくさんいると思うが、このようなイベントに主体的に参加してみようという人はきっと少ないだろう。私たちが今、やらなくてはいけないことは、学びたいという意欲をもつ若い世代の人びと（とくに中高生）をいかにして、ともに平和のことについて考える仲間にできるかということだろう。（高校２年）

■ 原爆はその時限りの苦しみではなく、今でも苦しみが続いていて差別などがなくなったわけではないというのが心に残っています。原爆、戦争は絶対にあってはならないとどの方もおっしゃいますが、いまだに戦争がなくならないのが悲しいです。もっと僕たちみたいに平和を願う人が増えればいいな、と心から願います。（高校３年）

■「被爆したことによって、今まで辛かったことはありますか？」と聞くと、「娘が被爆二世というだけで結婚を相手の両親に断られたこと」とおっしゃいました。私はひどいな、と思いました。しかし、断ったその両親もこれから生まれてくるであろう孫のことを考えたのだと思います。私はそれも人間として正直な行動だと思うのでその人たちが悪いとは思いません。やはり原爆を落とすきっかけをつくってしまった戦争そのものが悪いのだと感じました。（高校２年）

■ どうしてあんなことになってしまったのか。悲劇の後で悔やんでも、傷つき、失われたものは帰らない。だから僕たちは想像し、学び、自分たちの思いを訴え続ける力を持たなければならない。「戦争は何があっても、絶対にしてはならない」。Ｓさんの言葉に僕は誓いたい。この実現のために僕はできるありったけの努力を続けていくことを。

強く強く手渡された思いを心に刻もう。そして、自ら決意しよう。声なき声を聞け。見えない痛みを涙で包め。そして、それをしっかりと抱きしめるべきだ、と。（高校２年）

■ いま改憲問題や橋下発言などいろいろなことがあるなかで、「戦争」というものが昔の、過去の話とは言えなくなっている。だからこそ、これからの時代をつくっていく若者が、高齢化してきている被爆者の方がたがお亡くなりになる前に、戦争体験を聞き取り、語り継いでいくことが必要だと思う。これは、原爆に対してのみに言えることではなく、空襲のことやフクシマなど忘れてはならない全てのことに言えることである。（高校２年）

■「100 人被爆者がいたら、100 通りの被爆体験がある」。このことを聞いて、今まで私が被爆体験

ダウンロード用PDFデータ

を聞いてきて、本当に１人１人内容が違ったなと感じました。
これからも、１人聞いたからもういいだろうと思わないで、また１人、１人と、たくさんの人の体験を聞き、自分自身の意見として、思いを持っていくべきだと感じました。（高校３年）

■ 戦争は絶対にだめというＳさんの思いがとても強く伝わってきました。世界の人びとに伝える前に、まず唯一の被爆国日本の政府、国民が知るべきであり、それから世界のなかへ、ということを感じました。（高校生）

■ Ｏさんが「来年被爆 70 年は被爆者にはもうあとの節目の年はない。そんな思いでいます」と書かれていた。この言葉に私はハッとした。被爆者にとっての被爆 70 年。その思いを受け止めなければと思う。

■ お母さんが被爆時のことを１歳で被爆されたＵさん本人には話されず、戦後生まれの妹さんにはお話されたというのは、やはりＵさんにはあまりいろいろな悩みを与えたくなかったのでは、と思われました。被爆二世でもある妹さんから、お母さんが妹さんに直接話しておられたことをうかがうことも必要だと思います。Ｕさんは、福島の原発被曝の子どもたちや母親のことを気遣って話されました。私たちは、広く世界の被爆者（被曝者）のために役立てることができるよう、少しでも多くの記録をとりたいと考えます。

■ ９歳の少年が原爆投下後の長崎の街を歩き自宅で家族の死を確認した事はその情景を想像するとつらい。そして、戦後を親戚を「グルグル回って」面倒をみてもらう。
兄さん、どうしてこんな辛か目にあわんとあかんのやろか」の言葉は胸に突き刺さる。原爆被害の非人道性を感じる。それでも、Ｉさんは前を向いて生きて行こうと、アルバイトをしながら定時制高校を卒業し、さらに通信制大学でも学ぼうとしてこられた。
Ｉさんの証言を聞いた 40 代の聞き取る会会員は、「苦労されても明るく前向きに人との縁を大事に生きてこられた姿に感動しました」と感想を述べていた。本当にその通りだと私も思う。

■ 出征中だった父は原爆にあわなかったのですが、妻子は原爆で亡くなりました。父が再婚して私が生まれました。小学校の時、８月９日は登校日になっていて原爆の話をされていた記憶があります。気にしないでお墓参りをしていたのですが、お墓をつくづく見たら異母兄弟の年齢が５歳とか３歳とか刻まれていました。これからは兄弟の分まできちんと生きていかなければいけないなと思うようになりました。今日はお話をうかがって、あらためて原爆の恐ろしさ、戦争の恐ろしさにじーんときて、みなさんと一緒に学習しノーモア・ヒバクシャの運動に関わっていきたいと思いました。

■ 被爆者があの日の体験を話される時、見たこと、臭いのこと、地獄のたいへんな体験を話していただきますが、フラッシュバックしてつらい、思い出したくない経験（家族にも言えない話）を話していただけるのだと謙虚にありがたくうかがわないといけないと思っている。一瞬一日の経験だけではなく 68 年間差別を含めて時を経ながら生きてこられた歴史であり、勇気をもって話していただいたことを実感した。

■ Ｎさんの体験を聞いたのは初めてでした。とくに積極的に発言するきっかけが、もしかしたら自分であったかもしれない女学校の一年下の女学生のこと、その中に親しい人がいた、この人たちのために語らなければならないという言葉にとても真実味があり、このような思いをどのように伝えるのか考えてみたいと思った。

■ 質問が出るまで、妹さんとお母さんが今もどこへいったかわからないこと、自宅の焼け跡を掘ったけど見つからなかったことはお話にならなかった。８月９日、橘湾の動員先から家に向かう途中、自宅のあった松山町で見たことや感じたことなど、語りきれないことがもっとたくさんあるのでは、と感じた。「あんまりいいことじゃないし、厳しいことだから忘れたいと思ってきた」。「誰にも話さずに消えていこうと思っていた」「妹に似た５歳の孫の屈託のない姿を見て、この子たちは私が話さなければ何も知らない。話さなくてはと思った」。お話の中身だけではなく、表情や声のトーンにＫさんの中に今も続く“痛み”と“願い”を感じた。

■ なぜ被爆体験を語るのか、「昔の話ではなく今もなお続いている問題であり、未来にかかわってくることだから私は被爆体験を話している」という話がたいへん印象的でした。これからの未来を担っていく自分たち若い世代がもっと真剣に考えていかなくてはいけないと強く思いました。

■“戦争”を遠い昔のこととしないためにはどうすればいいのか、生活もスタイルも全く違う現在の生活しか知らない者にどう伝えるのか、もっともっと自分自身、考えていかなければならないことを痛感しました。

■ いまだに国の体質が変わっていないと改めて思いました。広島、長崎、福島のことが正しく語られていない。

ダウンロード用PDFデータ

■「今の若者は」という言葉が使われるようになって久しいですが、私たちにも、私たちだからこそできることがある！ という希望も感じることができました。「生きているからこそ」。これからも忘れずに生きていきたいです。（大学２年）

■ 今回初めて被爆者の方に直接お話をうかがったのですが、自分の無知さに恥ずかしくなりました。日本人として、将来の母親として、きちんとした情報を伝えられるよう今後は勉強していきたいと思います。教育実習で生徒が「原爆が戦争を終わらせた、仕方がなかった」を選んでいるのを見て、危機感を感じていました。参加して直接お話を聞けば考えないことだと実感したので、このような機会の重要性を知りました。（大学４年）

■ Ｋさんの「命のバトンタッチ」という言葉が印象的でした。確かにバトンを受け取り、世界に向けて活動していく必要性をしっかりと感じました。

■ 海外の人の協力や若い人の活動について継承の仕方を工夫していく必要があると聞いて、新しい形での継承の仕方で今後活動していきたいと考えました。戦争の歴史、原爆が投下されたという事実を真剣に受けとめ、二度と同じ過ちをくり返さないようにしていく必要があるということを強く思いました。そのために戦争経験者の方の思いを背負いながら、いけないことはいけないと声を上げる勇気を持つことが大切だと思いました。（大学４年）

■ 学生たちはみな次世代につなげることを考えている。その学生たちをつなげる役割をできたらいいなと思いました。（大学３年）

■ 一人ひとり被爆体験は異なっているので、もっと知りたいし知らなければならないと痛感しました。当時の悲惨さは想像しても、それを超えるものだろうと思いました。（大学４年）

■ 広島への修学旅行後におこなったディベートで、戦争の賛成派と反対派が半々だった話にはショックを受けました。想像力をかき立てる方法など、伝え方を検討する必要があると思いました。一方、加害／被害を含めた語り、現代の戦争に結びつけた語りなど、体験者ではない者でも、できることがあるのでは、と考え始めました。

■ まず第一に自分が原爆の事実についてもよく知ることから始め、その上で自分にできる限りの活動に積極的に参加していきたいです。朗読劇やピースウォーク、平和の祈りコンサート等は今後も続けていきたいと思います。（大学４年）

■ 他の方の証言もより多く聞いていきたいと思うようになりました。また、お話に出てきた補償の問題や核兵器についても調べていきたいです。（大学３年）

■ 原爆の非人間性とか非人道性と一言でくくると伝わらないので、被爆者の話を実際に聞く機会を広めていきたいし、被爆者とともに二度と同じことをくり返さないために国民として責任ある行動をしていきたい。

■ お話しいただく全てのことが新鮮で、人の温度が感じられる知識として蓄積されたように思いますし、もっと知りたいと思いました。

■ 日本政府はなぜ同じ過ちを犯すのかと思いました。戦争をしても悲しみしか残らないし、原発を動かしてしまうと広島、長崎で起こったことの再来になってしまうと思いました。（高校生）

■ 語れない人たちの声をどう残すかについて課題を感じたので、これから考えていきたい。（大学２年）

■ 現政権は発展途上国援助とか日本経済活性化とか，さらには地球温暖化防止とか、いろいろ理由をつけて原発の売り込みに懸命ですが、被爆した方の苦しみ、悲しみを知ろうともしないし、避けているのではないかとさえ思えます。上から目線で、国の発展のためだから我慢しろ、これは福島でも同じです。だれも責任を取ろうとしない。戦争然り、原発事故然り。責任をとらない日本の政治家の体質が、ここまで政治の腐敗を招き、庶民から政治を遠ざけたのではないでしょうか。

◎ 聞き取りをおこなったグループ（順不同）

- 東京高校生平和ゼミナール連絡会
- コープみらい埼玉エリアえんどう豆
- コープみらい埼玉エリア浦和平和くらぶ
- コープみらい埼玉エリアぴょんふぁ
- コープみらい聞き書きクラブ
- (旧)コープみらい埼玉エリアユニセフ平和委員会
- ＪＣＣＵ協同組合塾
- コープあいち被爆者の声を聞き取る会
- 千葉県原爆被爆者の被爆体験聞き取り実行委員会
- 被爆体験聞き書き行動実行委員会（埼玉）
- 生協労連平和活動推進委員会
- ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワーク
- ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

ダウンロード用PDFデータ

【資料】

2015年4月

核兵器国 宛

日本原水爆被害者団体協議会
代表委員　坪井　　直
代表委員　谷口　稜曄
代表委員　岩佐　幹三
事務局長　田中　熙巳

要　請　書

私たち日本被団協は、いまから70年前、1945年8月6日、9日、米軍が広島と長崎に投下した原子爆弾を生身で体験し、かろうじて生き残った被爆者の全国組織です。

あのとき私たちが見たものは、想像を絶するおぞましい光景でした。生きとし生けるものすべてが、この世でかつて経験したことのない巨大な破壊力によって生命を奪われ、傷つけられ、町は焼きつくされ、死の街と化しました。ただ一面の焦土、その中に見るものは多数の死者、苦痛にもだえる負傷者たち・・・「地獄」としか言いようのない惨たらしさでした。目に見えぬ放射線は、生き延びた者の体を蝕み、傷めつづけています。

被爆者は、核兵器の本質、「絶滅兵器」としての恐ろしさを身をもって体験しました。核兵器は、人間的なものの一切を奪う「悪魔の兵器」です。人間と共存はできません。どんな理由があっても使ってはなりません。使わせてはなりません。3発目の使用を許すなら、人類の破滅をもたらします。核兵器が世界に存在する限り、核戦争の危険がつきまとい、人類は絶滅の危機にさらされつづけます。

私たちは、あの日から70年、「核戦争起こすな、核兵器なくせ」「ふたたび被爆者をつくるな」「ヒロシマ・ナガサキを世界のどこにもくりかえさせるな」と、声をかぎりに訴え続けてきました。

2010年4月、赤十字国際委員会総裁は、核兵器の非人道性に注目し核兵器削減、廃絶への外交を強めることを訴えました。2010年NPT再検討会議はその合意文書で「核兵器のいかなる使用も壊滅的な人道的結果をもたらすことに深い懸念」を表明し、2015年再検討会議第1回準備委員会で、核兵器の非人道性に関する「共同声明」が出され、「核兵器の人道的影響に関する国際会議」の開催を提唱しました。5回の共同声明、3回の国際会議を重ね、2015年のNPT再検討会議を迎えます。いまでは圧倒的多数の国と地域が「核兵器のない世界」実現に力をつくしており、私たちは励まされています。

すべての核保有国の国家元首、政府代表のみなさんに要請します。

2000年NPT再検討会議でみなさんが約束し、2010年に再確認した「保有核兵器の完全破棄を達成するとの核兵器国による明確な約束の履行」を速やかに実行してください。

核抑止力による安全保障ではなく、相互信頼に基づく安全保障政策に転換し、核兵器廃絶へ大きく踏み出してください。

法的枠組みについての交渉開始を検討し、速やかな核兵器の廃絶にむけて勇気ある大きな第一歩を踏み出してください。

国連総会ビルのメインギャラリーで日本被団協が開催する原爆展「核兵器のない世界へ―ヒロシマ・ナガサキのねがい」を見に来てください。被爆者らの命がけの訴えに耳を傾けてください。

ダウンロード用PDFデータ

日本原水爆被害者団体協議会
（日本被団協）

〒105-0012
東京都港区芝大門 １－３－５
ゲイブルビル 902
電　話　03 - 3438 - 1897
ＦＡＸ　03 - 3431 - 2113

特定非営利活動法人
ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

〒102-0085
東京都千代田区六番町 15　プラザエフ 6F
生協総合研究所気付
直通電話／直通 FAX　03-5216-7757

2015 年 2 月（二版）ダウンロード用 PDF

（冊子としての頒価は 200 円）